「思考力や想像力を働かせながら読む」ワークシート⑥『少年の日の思い出』　学習日　　月　日

組　　号氏名

## ◎仮想対談　大人になった「僕」とエーミールにあの日のことを語らせよう。

客（僕）が私に、少年の日の思い出を語り終えた頃には、もう夜の十時を過ぎていた。客はずっと抱え込んでいたあの出来事を話すことができて、すこしほっとしているようだ。客はたばこを吸い終えると家に帰っていった。来週の土曜日に、また私と会う約束をして。

次の土曜日の夕方、再び彼がやってきた。私は彼とお茶を飲みながら、とりとめもない話をしていた。その時、書斎をノックする音がした。そして、一人の男性が書斎に入ってきた。

私は彼に内緒で、私の友達であるエーミールを呼んでいたのだ。

「君に内緒でエーミールを呼んだことは謝るよ。ただ、この前、君の話を聞いて、エーミールに君の気持ちを知ってもらいたいと思ったものだから・・」

そう言ったあと、私は、エーミールの方を向いて、いすに座るように言った。

僕：びっくりしたよ。ずいぶん久しぶりだね。元気にしていたかい？

エーミール：ああ、元気だったよ。君も元気そうでなによりだ。二人ともずいぶん年をとったものだ。

僕：ほんとに年を取ったものだ。この間、ここに来て話をしていたら、少年の日のことが話題になったんだ。ちょう集めのことさ。

エーミール：あの頃は、みんなちょう集めに夢中になっていたね。僕もその一人だったよ。

僕：僕は熱情的な収集家だったんだ。

A

エーミール：そういえば、君が僕にコムラサキを見せてくれたことを思い出したよ。

僕：そう。そして、君にこっぴどく批評されたんだ。あの頃、僕は君のことを

B

エーミール：僕のことをそんなふうに見てたんだ。初めて知ったよ。

「思考力や想像力を働かせながら読む」ワークシート⑥『少年の日の思い出』　学習日　月　日

組　号氏名

僕　今でも忘れられないことがあるんだ。君がさなぎからクジャクヤママユを返したときのことなんだ。

エーミール　ああ、僕もはっきり覚えているよ。

僕　君がクジャクヤママユをさなぎからかえしたと聞いたとき、待ちきれなくて君の家に行ったんだ。

C

エーミール　僕は、君が家に来たとき、

D

僕　そうだよね。大人になった今ならわかるよ。あの時僕は、君の家から帰ってきて、僕の持っているちょうの収集を一つ一つ取り出して押しつぶしたんだ。

E

客（僕）が話し終えたあと、しばらくの間沈黙が続いた。そして、エーミールは私に、「そろそろ帰るよ」言っていすから立ち上がった。
客とエーミールはお互いの顔を見つめた。

①

②

（話し終えた時の情景を書いてみましょう）